

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民科／政治・経済】

1. 対象 3年生文系

読み取った情報をもとに自分の考えをまとめることができるが、グループワークやペアワークで対話を通じて表現することは苦手とする生徒が多い。様々な社会的事象から変化や特徴をとらえ、自らの考えを形成し、さらに対話を通して考えを深められるような活動をしていきたい。

2. 単元名 「 少子高齢社会と社会保障 」 （全3時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障の考え方を知り、それらが歴史的にどのように制度化されてきたかについて理解する。 ・ 日本の社会保障制度が諸外国との比較でどのようなものであるかを読み取り、また、その概要を理解する。 ・ 少子高齢化が進行する中で、社会保障が直面している問題について、とくに財政的な課題を資料から適切に読み取り、理解する。 ・ 社会保障は高齢者だけのものではなく、社会に参加するすべての世代について検討されるべきものであることを理解する。 ・ 各国の社会保障のしくみを信頼性の高い情報源から収集し、長所と短所を比較する形で適切に整理することができる。
思考力，判断力，表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障のあり方について、税金中心のしくみと社会保険中心のしくみでどのような違いがあるか協働的に考察し、それらを適切に表現する。 ・ 日本の社会保障制度の現状と課題について、多面的・多角的な観点(少子高齢化, 年金制度, 負担と給付のバランス)に立ちながら考察し、適切に表現する。
学びに向かう力，人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して暮らせる豊かな社会について主体的に追究して、社会保障を社会の中で有効に働かせるための課題を意欲的に解決しようとする。 ・ よりよい社会の実現を視野に、ノーマライゼーションの進展について学習したことを社会生活に生かそうとする。 ・ 日本の社会保障をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の社会保障制度やこれからの日本の社会保障制度について興味関心をもち、「日本における持続可能な福祉社会の実現」を探究するための意欲を高める。

4. 本時の目標

日本の社会保障制度とその財源について資料をもとに比較し、日本の社会保障制度の現状と課題について、多面的・多角的な観点(少子高齢化、年金制度、高齢者だけではなく各世代への支援、負担と給付のバランス、公平性)に立ちながら考察し、他者と意見交換することで「日本における持続可能な福祉社会の実現」を追求するための自分の考えを持ち、自分の言葉で適切に表現する。

5. 授業展開【(本時)・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

これからの日本における理想の社会保障とはどのようなものだろうか。

考えるための材料

高齢期の社会保障	医療の社会保障	子育て世代の社会保障
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障給付費と財源の内訳 ・ 年金制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカのオバマケアと日本の医療制度の比較 ・ 社会保障給付費の内訳 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各国の政策分野別社会支出の割合 ・ 日本とスウェーデンの制度の比較
想定される活動		
<p>「現在の財政で、給付と負担のバランスはとれているのか」について考察する。</p> <p>社会保障給付費は増加し続けているが、社会保険料収入は増加をしていないことに気づき、公平な給付と負担のバランスについて資料をもとに話し合う。</p>	<p>「社会保障と自助努力」について考察する。</p> <p>公的健康保険がなかったらどうなるのか、その実際をアメリカの例から理解し日本の公的健康保険制度と比較するとともに、日本の少子高齢化社会における</p>	<p>「社会保障を充実させると少子化は改善するのか」について考察する。</p> <p>日本と高福祉国スウェーデンの社会保障支出の内訳を比較し、スウェーデンは日本よりも現役世代の保障が手厚いことに気づ</p>

	持続可能な制度について資料をもとに話し合う。	き、日本の少子化への対策について資料をもとに話し合う。
--	------------------------	-----------------------------

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【グループワーク エキスパート活動 15分】

- ・3人組で、各資料の間について話し合いながら考える。

A：「現在の財政で、給付と負担のバランスはとれているのか」

- ・少子高齢化で社会保障給付費が上がり続けているからバランスがとれていないと思う。
- ・年金制度や医療保険もどんどん負担が高くなってきてこれからの私たちの負担が不安。
- ・こんなに赤字国債を出していて日本の将来は大丈夫なのだろうか。

B：「自助努力か社会保障維持か」

- ・アメリカは負担が少ないけれど、医療費が高いっていうのは生活に不安があると思う。
- ・日本の皆保険を維持していくためには負担は仕方ないから国民の負担増も仕方ないのかもしれない。
- ・高額医療費制度があることでもしもの時に安心できる。

C：「社会保障を充実させると少子化は改善するのか」

- ・スウェーデンは少子化が改善しているが、それは子育て世代への社会保障が手厚いからではないか。
- ・家族分野への支出が多いのは、大学までの学費無料やというの聞いたことがある。子どもから大人まで安心して生活できそう。
- ・高い税金がかかると消費は落ち込みそう。
- ・出産、育児、失業などにも手厚い保障があるから経済成長につながるのかもしれない。

【グループワーク ジグソー活動 25分】

- ・グループを入れ替え、それぞれのグループが取り組んだ資料を他グループの生徒に教えあい、共有する。
- ・問い：「これからの日本における理想の社会保障とはどのようなものだろうか？」

グループで、Google Jamboardを活用しSWOT分析を用いながら日本の社会保障制度の課題は何か考察する。その上で今後の日本が目指すべき社会保障の体制を考え、提言と根拠を、グループごと対話を通じてまとめる。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

社会保障制度における目的、日本の財政状況、税制、日本の年齢別人口比率、他国の社会保障の実施状況、どの立場の人も安心して暮らせるか、持続可能性、世代間の公平性、将来性などの視点に注目して、グループごとに提言書を作成できることを成果とする。

財源

- ・50年後は今よりも少子高齢化が進行しているので増税は仕方ない。
- ・自分たちが働いていて税金が上がることには不安があるが、自分の年金がなくなるのも困る。
- ・今の財政状況では老後が不安だからしっかり積み立てなければいけない。

年代・立場

- ・これまで高齢化が優遇されていたので自分たちの時に年金が減るのは嫌だ。
- ・少子化が進んで人口が減少すると日本の存続自体危ういから少子化対策に税金を投入すべきだ。
- ・健康でいれば働けるから、医療にも税金をもっと投入すべきだ。

将来性

- ・政府の役割が大きくなると財政への負担が増加する。
- ・国債をこれ以上増やさないように、歳出の見直しを図るべきだ。
- ・他国（スウェーデン）の例をみると、少子高齢化対策をすると経済も安定するから日本も見習ってみてはどうか。

「子育て世帯への経済的支援の充実」
「誰もが必要な教育を受けやすい環境づくり」
「ICTを活用した働き方改革による仕事と生活の調和の実現」
「外国人労働者の誘致のための法整備」
「外国への人の流出STOP！日本で暮らしやすい税制度改革」